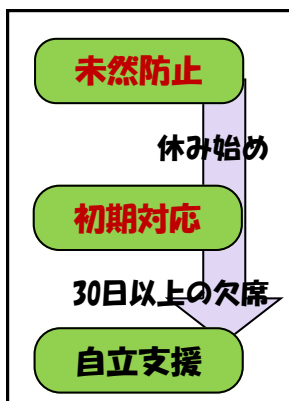


## 4 新たな不登校を生まない取組を

「不登校を減らす」ためには、事が起きてからの対応では間に合いません。予防的な不登校対策が必要です。「未然防止」と「初期対応」を全職員で共通理解し、普段から意識して取り組むことが、新たな不登校を防ぐことにつながります。



不登校は、誰にでも、どの学級でも起こる可能性があるものです。また、担任や一部担当者による対応だけでは解決できないことが多い難しい問題です。

「未然防止」ではまず、すべての児童生徒が「学校に来ることが楽しい」と感じられるような「魅力ある学校づくり」を進めていくことが重要です。その中心は、「授業づくり」と「学級づくり」です。

「初期対応」は、前年度までに休みがちであった児童生徒を中心に、安易に休ませないようにするための対応です。速やかに、対応を行うための準備は、前年度や過去の出欠席情報の収集から始まります。休まないですむよう未然防止に配慮し、休み始めたら即、チームで対応していく必要があります。

### ポイント①

### 不登校の兆候を見逃さず初期対応を行う

不登校の兆候を見逃さないためには、「子どもはめったに休まない」という意識をもって対応に当たることが大切です。休み始めに対し、迅速かつ温かい対応を行うことで不登校の防止につながります。病気欠席の中にも、不登校の兆候が隠れていることがあります。

#### 『欠席児童生徒に対する対応の方法』（例）（※このような対応方法の共有が重要）

##### 【欠席1日】

- ◆子どもは1日休んでも、再登校には不安があります。安心して休み、また登校できるよう電話などで声をかけます。（気になる児童生徒には、家庭訪問も大切です。）
- ◆病気欠席の連絡を受けたら、病状、医療機関の受診状況を把握するなどして、適切な休み方を助言することも大切です。

##### 【欠席が連続3日】

- ◆休みがちな児童生徒にとって、長期欠席のきっかけとなることがあります。家庭訪問などを行い、「心配しているよ」「待っているよ」などの気持ちを伝え、安心して再登校できるよう支援をするときです。

##### 【欠席が月合計で3日を超えた】

- ◆連続していないので見落としがちですが、子どもの心身のバランスが崩れている可能性があります。月曜日に休みがち、「あれ？また休んでる」など気付いたら、対応を始めます。
- ◆友人関係、学業、部活動等に何らかの悩みを抱えているかもしれません。「最近どうしたの？」「大丈夫？」などと声をかけ、子どもの悩みや不安に寄り添います。
- ◆保護者にも、子どもの様子が心配であることを伝え、家庭での様子等を伺うようにします。
- ◆管理職に欠席理由、対応状況等を報告し、学校としても連携した対応をとります。

##### 【欠席が月に6日以上】

- ◆支援チームを編成するときです。担任、養護教諭、スクールカウンセラー、相談員など、子どもと信頼関係が築きやすい教職員でチームを構成します。
- ◆指導記録（個人記録）に基づく、生活、学習、進路面のサポートを開始します。

## ポイント② 1対1のコミュニケーションを大切にする

友達関係、学力不振、学級の環境に気を遣う、生活習慣の乱れなど、不登校に陥る原因は様々ですが、教師からの「学校生活に向かう気力を高める」アプローチが必要です。例えば一つの特技やその子らしさが認められたことで、「頑張る気持ち」が高まることもあります。

### ①何気ない会話をする

- ・その子らしさを認めるチャンス。

### ②傾聴の姿勢で対応する

- ・悩みの本質を語ってくれたら、(助言の前に)まず受け止める。

### ③保護者の気持ちに配慮する

- ・定期的に連絡をとり、心配な気持ちや思いを受け止める。

## ポイント③ 小学校時代の不登校傾向を確認する (中1不登校の未然防止)

年度初めに、中学校1年生の関係者(小6と中1の担任同士など)が情報交換することが大切です。気になる生徒についてはすぐに、主任や管理職と相談して連絡を取り合しましょう。下の表に基づいて、「不登校経験あり群」(欠席30日以上だけでなく、保健室等登校や遅刻早退日数も含めた出欠席の状況)の生徒を調べ、対応を準備しておくことも有効です。

### ○まず、「不登校相当」と「準不登校」を下のように換算します

区分	小学校4～6年の各学年の状況
不登校相当	欠席日数+保健室等登校日数+(遅刻早退日数÷2)=30日以上
準不登校	欠席日数+保健室等登校日数+(遅刻早退日数÷2)=15日以上30日未満

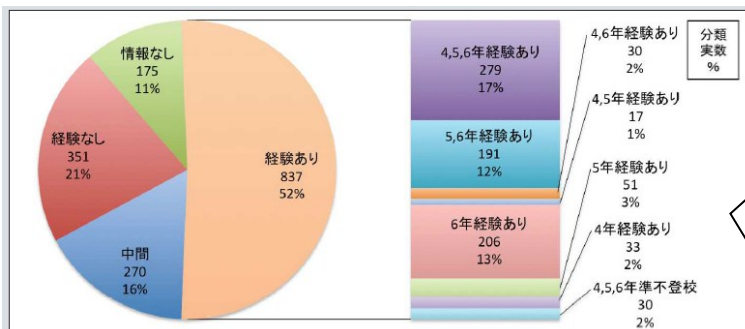
### ○次に、上の区分をもとに下表に当てはめ、3年間の状況を分類します

区分	小学校4～6年の3年間の状況
「不登校経験あり」群	3年間の間に一度でも「不登校相当」に該当した生徒 3年間とも「準不登校」に該当した生徒
「不登校経験なし」群	3年間とも「不登校相当・準不登校」のいずれにも該当しなかった生徒
「情報なし」群	小学校からの情報がなかった生徒
「中間」群	上記以外の生徒

### 【「中1不登校調査」分析の結果】(国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター)

#### ○中学校1年生で不登校になった生徒の半分が「不登校経験あり」群である

- ・小学校時に欠席や遅刻早退が目立たなかった児童が、中1になっていきなり「不登校になる」割合は20～25%にとどまる。



小学校6年生の状況だけを見て「不登校(30日欠席)ではなかったので大丈夫」と判断するのではなく、『不登校経験あり』という基準も参考にしながら、積極的に不登校の未然防止に取り組んでいくことが大切です。